

「いのち
生命は時間」

広島県 萬福寺住職 高橋道英
まんぶくじ たかはしどうえい

私はこれまでに、仏さまから二度の贈り物を頂いています。一度目の贈り物は、四十一歳の時の胃癌。まだ初期で、五年間の転移もなく卒業しました。二度目は昨年のごと、五十六歳での大腸癌でした。

昨年二月、私は人間ドックを受信しました。結果は精密検査が必要とのことでした。怖がりの私は、すぐに近くの病院で検査を受け、大腸がんと告知されました。

コロナ禍で、二週間遅れの手術を受け、患部と、近くのリンパ節を切除しました。リンパ節には転移が四つあり、大腸癌ステージ3という診断でした。ステージ3の標準治療には、抗癌剤がついてきます。医師のおすすめメニューなので、お盆のお勤めが一区切りした、八月中旬から治療に入りました。二週間おきに、十二回の抗癌剤です。副作用がきついと聞いていましたが、最初の抗癌剤から三回目までは軽く推移し、私の場合は、「こんなもの?」と感じるようなものでした。

しかし六回目の抗癌剤の後、副作用がきつくなり、七回目からは、抗癌剤の量を調整してもらいました。その後、手足や口の痺れと、時にお手洗いが近くなりました。他にもいろいろと支障があり、周りに迷惑をかけていますが、何とか日常生活を勤めています。

二十年ほど前、当時聖路加国際病院の医師であった日野原重明さんの本を読みました。その中に「生命は時間」、という言葉がありました。

しかし、その時にはこの言葉がピンときませんでした。しかし、今回二度目の大病を通して「生命は時間」という言葉が、ストンと腑に落ちました。

父が死んだ年まであと十年。まさに「生命は時間」です。このひと時ひと時を、大切に生きたいと感じました。病の「癌」を願いの「願」に変えて、精進させていただきたいと思います。